【羽幌タイムス・日刊留萌新聞・北海道新聞に掲載されました】

8月20日(月)、韓国・素明女子高等学校へ交換留学する訪問団が羽幌町長を表敬訪問し、駒井久晃町長より、しっかりと見聞を広めてくださいと激励の言葉をいただきました。

8月28日(火)から9月3日(月)の滞在期間で交換留学を行います。国際交流は滅多にできない貴重な経験です。有意義な留学になることを期待しています。

【羽幌タイムス】

羽幌タイムス
発行所 羽幌タイムス社 苫前郡羽幌町南6の4 ☎62～2161(代) FAX62～2162

＝羽幌高、素明女子高の国際交流＝

学びふれあい、かけがえない財産に

韓国へ出発前に駒井町長を表敬訪問

【羽幌】韓国素明女子高を訪問する羽幌高校(宮下裕加校長)の生徒が二十日、同行の羽幌国際交流協会(蒔田光子代表)のメンバーとともに駒井久晃町長を表敬訪問、励ましを受けた。

生徒は一年生二人、二年生四人、三年生二人の八人、宮下校長はじめ、三人が引率、同協会からは蒔田会長ら三人が加わる。二十八日に千歳を出発、夕方に仁川空港着、学校での歓迎式のあと、ホームステイ先に移動する。蒔田会長によると、受け入れ家庭の希望が多く、一人一家族、ほとんどは日本語ができるという。

翌二十九日から授業に参加、開講記念式が行われる。三十日は授業ほか、生徒との自由交流、文化体験、三十一日も授業、伝統文化体験、一～二日はホームステイ先と生徒と自由観光など、三日に帰国する。羽高生は学校の歓迎式などで、こきりこ神楽舞、よさこいを披露する予定だ。

蒔田会長は「これまでの六十三人の学生が羽幌高校を訪れ、羽幌からは今回の八人を含めて四十七人となる。韓国での実体験はかけがえのない財産になると思う」と挨拶、生徒は「いろんなことを学んできます」、「文化の違いを勉強したい」などと決意を語り、駒井町長は「帰ってきてから話を聴きたい。楽しんできてください」とエールを送っていた。

羽幌国際交流協会と羽幌高校が共催して、平成十一年から始まった相互交流、新型インフルエンザ、両国の不安な情勢、サーズの流行など休止の年があったものの、交流は続けていて、一昨年の七月に素明女子高が通算八度目の来校、昨年は十月に羽高生徒が訪問する予定だったが、北朝鮮のミサイル発射、核実験など、半島情勢が不安だとして土壇場に中止した。韓国訪問は四年ぶりとなる。

表敬訪問の羽高生徒、国際交流協会のメンバー

使ってお得な 日通プロパン 各種燃料 駒井 ☎62-2377

【日刊留萌新聞】

韓国短期留学 羽幌高生8人

「いろんな経験したい」 駒井町長が激励

【羽幌】28日から9月3日まで6泊7日で韓国の素明女子高校に短期留学する羽幌高校（宮下裕加校長）の生徒が20日、出発あいさつをするため駒井久晃町長を表敬訪問し、一人一人が抱負を述べるとともに駒井町長から激励を受けた。

同女子高に短期留学するのは、木村日和さん(1年)、堤怜央君（同）、池田亜里沙さん(2年)、手代森陽菜さん（同）、伊原輝聖君（同）、品野遥海さん（同）、山岡真優さん(3年)、佐藤未結さん（同）の8人。宮下校長や町国際交流協会の蒔田光子代表ら6人が引率し、ホームステイ先に宿泊しながら同女子高の授業に参加。こきりこ踊りなどを発表して現地の高校生と交流するほか、ソウル市内観光などを行い、見聞を広める。

羽幌町役場を表敬訪問し駒井町長に出発のあいさつをする羽幌高校の生徒

生徒たちは午前11時に宮下校長、蒔田代表らとともに町役場を訪問し、蒔田代表が「異文化を五感で感じ視野を広めることは、生徒たちの貴重な財産になると思う。安全で楽しい交流ができるようにサポートする」、宮下校長が「生徒たちがいろいろなことを見て、経験して今後の人生に生かせるようにしたい」とそれぞれあいさつした。

このあと、生徒一人一人が自己紹介を兼ねながら「たくさんのことを学べるように頑張りたい」、「いろいろな経験をしたい」などと抱負を述べ、駒井町長は「いろいろなことをたくさん見て聞いて感じてきてほしい。これからの人生に大いに役立つと思う」と、間近に迫った短期留学に胸を弾ませている生徒たちを激励した。

羽幌高校と素明女子高校との交流は、平成11年に羽幌高校創立50周年を記念して同女子高の生徒7人を招いたのが始まり。以来、交互に訪問する形で、交流の歴史を重ねており、本来は昨年、羽幌高校生が同女子校に短期留学する予定だったが、北朝鮮の核開発を巡り、国際情勢が緊迫化したため見送られた経緯がある。（児玉一明）

【北海道新聞】

羽幌高生8人

韓国・素明女子高との交流親善

郷土芸能や語学準備

あす出発「両国の距離縮まれば」

韓国で披露する「神楽舞」の稽古に励む羽幌高生

韓国語の基礎会話をマスターした学習会

【羽幌】羽幌国際交流協会が1999年から続ける韓国・素明女子高との国際交流事業として羽幌高の生徒8人が28日、韓国に向けて出発する。韓国語であいさつしようとハングルの名刺を作り、会話の学習会を重ねてきた。現地で披露する郷土芸能「こきりこ唄・神楽舞」や「南中ソーラン」も、出発直前まで練習に励んだ。生徒たちは「日韓の距離が少しでも縮まれば」と張り切っている。（長谷川賢）

両校はほぼ1年おきに相互訪問し、今年で20年目。羽幌から素明へ行くのは2014年以来8回目となる。9月3日までの6泊7日の日程で、現地の高校生宅にホームステイしながら授業を参観したり郷土芸能の発表をしたりする。

生徒たちは作文と面接試験を経て選抜され、6月から韓国語学習会をスタート。8月下旬まで5回開催した。ハングルで自分の名前をつづった名刺は、現地の高校生やホストファミリーに自己紹介するときに役立てる。好きな韓国のアイドルグループや部活動なども盛り込み、会話が弾むように工夫した。

2年の熊林陽菜さん(17)は美術部に所属し、名刺に「絵を描くのが好き」と書き込んだ。「お世話になるホストファミリーに自作の油絵をプレゼントする」と話す。神楽舞を披露する3年の佐藤未結さん(18)は「巫女の衣装がきれいなので、それに負けない踊りをして日本の伝統文化を伝えたい」と稽古に励んだ。

稚内発祥の「南中ソーラン」を踊る2年の井原輝聖さん(16)は、動画投稿サイト「ユーチューブ」を何度も繰り返し見て振り付けを覚えた。「一緒に踊り出したくなるような躍動感あふれるパフォーマンスをしたい」と意気込む。

韓国留学の羽幌高生

「異文化に触れ学ぶ」

28日から7日間

出発を前に駒井町長（左）に抱負を述べた生徒たち

【羽幌】羽幌高生の男女8人が、韓国・富川市の素明女子高校に28日から短期留学する。生徒たちは20日、町役場を訪れ、駒井久晃町長に「日本と異なる文化に触れ、たくさんのことを学んできます」と抱負を述べた。

訪問は7日間。現地の高校生宅にホームステイしながら、授業を参観したり郷土芸能を発表したりする。渡航費は町の人づくり事業補助金を活用している。

3年の佐藤未結さん(17)は「いろいろ見て聞いて有意義な旅にしたい」と話し、最後に全員で「カムサハムニダ（ありがとうございます）」と覚えたての韓国語で謝意を表した。

昨年は北朝鮮の弾道ミサイル発射などで、訪問を急きょ中止した。駒井町長は「朝鮮半島情勢も安定しているので安全に渡航できそうですね。平和の空気を感じ取ってきてほしい」と激励した。（長谷川賢）